



佐世保市立 船越小学校

所在地 佐世保市船越町759番地
校長 野中 邦明
児童数 125名
学級数 9学級（令和元年5月1日現在）



学校教育目標

ふるさとを愛し、心豊かでたくましい児童の育成
～船越小の児童としての自信と誇いを～

めざす児童像

やさしい子 考える子 たくましい子

1 目 的

学校教育目標「ふるさとを愛し、心豊かでたくましい児童の育成」、めざす児童像「やさしい子・考える子・たくましい子」の具現化を図るため、具体的方策に沿った教育実践活動を推進する。

- (1) 確かな学力を付けるため、標準学力検査を前・後期2回実施し、その結果を分析し、「言語活動の充実」、特に「表現する」を中心として、基礎基本の定着と活用できる充実感を味わう子どもの育成を図る方策の手だてとする。
- (2) 「総合的な学習の時間」における福祉・人権教育、平和教育、自然体験などを中心に、「生きる力」の育成を図る。
- (3) 花や野菜の栽培、サツマイモづくり活動などの体験活動を中心に、地域の特性を生かし、学年に応じた地域の教育資源の活用を図る。

2 実践事例

(1) 確かな学力を付けるための取組

① 標準学力調査による実態の把握と活用

4月（全国・県・市の学力調査日）に第2学年と第3学年に、12月に全学年に標準学力検査を実施し、国語科と算数科における実態を把握した。過去（経年と前・後期）の検査結果と比較することにより、各学年及び個人の伸びと課題等の傾向を分析し、子どもたちの指導に生かした。このことにより、基礎学力の定着と活用力の向上に効果があった。

② 校内研究の推進

校内研修においては、今年度算数科に重点を置き、理論および授業研究に取り組んだ。数学的な表現を用いた学習を中心に据え、単元の目標達成のために有効な具体物、図、表、グラフなどの活用についての研究にも取り組むことができた。また、子どもたち一人一人に確かな学力を身に付けさせるために、「本時のめあてとまとめを明確に位置付けた授業」「本単元・本時で子どもたちに付けたい力が明確に位置付けられた授業」を意識して授業実践を行った。そして授業研究会では、県が推奨する児童の視点に立った反省会を行うことができた。この「本時のめあてとまとめを明確に位置付けた授業」や「本単元・本時で子どもたちに付けたい力が明確に位置付けられた授業」は佐世保市の「土台となる5つの考え方」にもあり、今後も大切にしていきたいと考える。



③ 読書タイム

今年度、毎週月～水曜日の朝の時間を「読書タイム」と位置付け、読書活動を通しての学力向上を図った。児童の貸し出し冊数は一人当たり140冊以上となり、読書に親しむ環境づくりの一助となった。また、朝から読書をするこ



(2) 生活科・総合的な学習の時間の取組

① 第1・2学年 「さつまいもを育てよう」

「野菜を育てよう」 【5～2月】

今年度も地域の方からお借りした畑を利用した。今年度は学び合いや交流を意識して、1・2年生と支援学級でさつまいもの苗植えや収穫を行った。昨年度の反省を生かし、猪対策を行い、たくさんのサツマイモを掘り出し、歓声が上がった。活動を通してより多くのふれ合いの場をもつことができた。

また、数種類の野菜を育てることが定着し、異学年で植物を栽培し、学習することができ、より収穫の喜びを味わうことができた。



② 第3学年 「高齢者と交流しよう」【6月～12月】

今年度は、「見学・体験・学習発表交流」と、3回実施することができた。

交流では、普段高齢者が行っている活動に参加したり、自分たちが考えたクイズや出し物を紹介・発表したりした。自然と笑顔や会話が生まれ、地域の高齢者の温かさや優しさに触れ、地域の良さを再発見することができた。

学校にとって地域は切っても切り離せない大切なものであり、これからも地域の方々とともに子どもたちが成長することを願っている。



③ 第4学年 「広げよう スマイル チャレンジド」【6～11月】

次年度、日本でオリンピック・パラリンピックが開催され、いろいろな人との交流がある。そこで、その中のパラスポーツに焦点を当て、学習を進めた。まず、アイマスク体験や車いす体験を通して体の不自由な方の気持ちを考えた。また、校内のバリアやバリアフリーも考えることができた。次にパラスポーツ体験に参加し、ハンデに関係なくだれでも楽しくスポーツができるということを学んだ。次に、社会科と関連付け、私たちの生活を守る人（警察や消防）がいることで、安心安全に生活できるということへ、学習を広げた。そして、この調べたことを、学習発表会を通して全校児童や地域の方に知ってもらうために、パソコンを使ったプレゼンテーションの学習にも広げることができた。



④ 第5学年 「お餅をつこう」【12月】

今年度は、ブロック塀工事のため、校地内にある学校田が使用できなかったが、家族とのふれあいをテーマに学年PTA行事と連携し「餅つき」を行った。この学習のために、社会科と関連し、コメの種類や餅について調べた。その中で、地域の中の行事等（年末年始の行事）にも学習を広げることができた。当日は、たくさんの保護者の方や家族の方が来られ、よいふれ合い活動ができた。



⑤ 第6学年 「地域とともにある学校」【5～3月】

本年度も、地域の中の学校を意識して活動を行った。その中で、船越小学校の運動会で踊っている船越音頭を伝統にしようと、地域の方に踊り方を学び、運動会でも披露した。運動会では、地域の方や保護者の方が昨年以上に踊りの輪に入っていたき、とてもよい発表の場となった。

また、自分たちが住む地域と修学旅行先の様子を比べたり、歴史遺産を調べたりする活動を通して、インターネットや資料の活用について理解を深めた。そして、保護者や地域の方にわかりやすく伝える活動を行った。いろいろな方への感謝の心や将来の自分の職業や夢を育むことにつなげることができた。



(3) 豊かな心を育むための取組

① 第1～6学年 「ふれあい教室」 【6月】

本校では、毎年いのちを見つめる強調月間の取組の一つとして、地域の方や保護者の方を講師として招き、ふれあい教室を開いている。事前の打ち合わせ会では、講師の方からも内容等についてアイデアが出されたり、試作品を持参されたりして意欲的に協力してくださった。

開講した教室は、紙飛行機・昔遊び、手芸・クラフト、グラウンドゴルフ、アート、料理、囲碁・将棋の6教室であった。今年度も、児童の発達段階を考え、学年ごとにそれぞれの教室を組織した。地域の方との交流を通して、地域と学校及び保護者の連帯感をより強めることができた。



② 第4～6学年 「茶道・華道体験学習」

【年間4回】

クラブ活動の時間を利用し、地域の方に講師になっていただき、お茶とお花の体験学習を実施した。

第4～6学年の児童が4つのグループに分かれ、それぞれ1回ずつ経験した。

お茶のたて方、お茶やお菓子のおもてなしの作法を丁寧に指導していただくなど、和やかな中にも、真剣な態度で取り組むことができた。華道については、彩りや高さのバランスといった生ける際のポイントを教えていただいた。子どもたちにとっては、日本古来の伝統文化に触れ、そのよさを知る貴重な経験となった。

また、茶碗や掛け軸などの一級の伝統工芸品の紹介もあり、本物のすばらしさに触れることもできた。



③ 地域の方々 「船越っ子見守り隊」 【通年】

船越小学校校区は、地域みんなで子どもを育てていこうという意識がとても高い地域である。以前より、地域の方々や保護者の協力、そして、交通指導員や駐在所の警察官など10数名の方に、登校の立哨指導を行っていただいている。子どもたちも見守り隊の皆さんに対して、元気に挨拶ができるようになった。

蛍光イエローのベストを着ていただいているので、運転手に対する安全運転啓蒙にも役立っている。

地域の皆さんに見守られながら、感謝の気持ちや思いやりの心をもった子ども、ルールを守り安全に生活できる子どもが育っている。

